

令和6年度福岡県農林水産公共事業評価委員会議事要旨

令和6年8月22日（木）
吉塚合同庁舎7階Y特5会議室

評価委員

大嶋委員、西委員、野口委員、平松委員、溝上委員
(50音順)

議案 検討事項：県営農村総合整備事業「山川2期地区」
林道「国見山線」
林道「高木線」
林道「千々谷～滝の脇線」

検討事項

・県営農村総合整備事業「山川2期地区」

問：道路の工法を変更して、どの程度まで事業経費が軽減したのか。
また、地球温暖化への効果などは費用対効果で評価されているのか。

答：農道3路線の概算で約2,000万円程度軽減している。
また、地球温暖化への効果としては費用対効果に計上していない。

問：工法変更による費用対効果のマイナスはないのか。

答：費用対効果のマイナスについては、草刈り等の維持管理経費が増えると思われ、そのマイナス分を加味した費用対効果となっている。

問：直近の農林水産省の経済効果算定マニュアルを使った結果が最後に示された総便益になっているのか。

答：そのとおり。

まとめ

県営農村総合整備事業「山川2期地区」に関して、農林水産公共事業評価委員会の意見は、「継続」とします。(異議なし)

・ 林道「国見山線」

問：林道の利用区域について、設定方法を確認させていただきたい。

答：林道の計画線形を基に森林整備が可能な範囲を利用区域として設定している。

問：地形以外に何か考慮しているのか。

答：既存の林道を接続した場合はその区域の取り込みを行うなど考慮している。

問：利用区域の設定方法が人によって変わるということはないか。

答：統一した考え方で設定しているため、利用区域が変わるということはない。

問：福岡県の現在の林道密度は林野庁の目標の半分程度ということだが、他県と比較しても密度が低いのか。

答：全国レベルで比較すると、半分より上に位置している。

問：工事で使っている木材は現場発生材を利用するのか。

答：現場で発生した木材は不揃いなことが多いため、円柱加工した木材を搬入している。

問：林道は何十年先まで見通して開設されているのか。またメンテナンスの見通しは。

答：工事完了後、引受先の自治体で年間数回の維持管理作業を行っている。
林道の評価期間のベースが40年のため、40年後を目標として計画を立てている。

問：林道国見山線は令和7年度に完了予定であれば、当委員会へは報告となるのでは。

答：令和7年度完成予定だが、実際の開通自体が次の年までかかる可能性が非常に高いため、審査の対象になった。

問：ふれあい機会創出便益で何が計上されているのか。

答：森林の総合利用の推進で、求菩提山へのアクセス道として便益が計上されている。

まとめ

林道「国見山線」に関して、農林水産公共事業評価委員会の意見は、「継続」とします。
(異議なし)

・ 林道「高木線」

質疑なし

まとめ

林道「高木線」に関して、農林水産公共事業評価委員会の意見は、「継続」とします。
(異議なし)

・ 林道「千々谷～滝の脇線」

問：林道の計画線形を検討する段階で、危険箇所は回避されているのか。

答：計画の段階で踏査を行い、大きな危険箇所は回避し計画する。しかし事前に地質調査等を行っていないので、局所的には対策が必要になるケースがある。

まとめ

林道「千々谷～滝の脇線」に関して、農林水産公共事業評価委員会の意見は、「継続」とします。(異議なし)